

2020年度「広報事業担当者のための課題解決・実践研修」実施報告書

特定非営利活動法人全国女性会館協議会御中
下記のとおり、報告いたします。

報告日 2021年1月13日

1 施設概要

施設名	新潟県女性センター	
代表者名・職名	公益財団法人 新潟県女性財団 理事長 阿部 愛子	
住所	〒950-0994 新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニソンプラザ2階	
	電話 025-285-6610	FAX 025-285-6630
担当者名・職名	主担当 宗村 瑞枝	
	E-mail munemura@npwf.jp	

施設名	福岡県男女共同参画センター「あすばる」	
代表者名・職名	公益財団法人 福岡県女性財団 代表理事 吉廣 啓子	
住所	〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1番地の7	
	電話 092-584-3739	FAX 092-584-1262
担当者名・職名	主担当 情報支援課長 笠 由美子 / 情報支援課主事 竹田 智子	
	E-mail info@asubaru.or.jp	

2 事業の概要

事業名	広報事業担当者のための課題解決・実践研修（オンライン開催）
趣旨、ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画センターにおける広報事業の現状と課題を把握し、時代と地域のニーズにあった広報事業を再構築する力をつける。 ・各センターで実施している広報事業の課題を洗い出し、対応の具体策を実践的に検討する。
対象者と定員	男女共同参画センター・女性センター等の広報事業担当者または広報事業に関心のある方、行政の男女共同参画担当者など20名。
実施日	令和2年12月3日（木）

<p>プログラム概要</p>	<p>◇オリエンテーション (9:30～10:00)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Zoom 接続確認、研修のねらいとプログラムの紹介、スタッフ紹介等 <p>◇講義① (10:00～11:00)</p> <p>「男女センターにおける広報事業の現状と課題 ～コロナ影響下の広報事業の再構築～」</p> <p>講師/桜井 陽子 ((特非) 全国女性会館協議会 顧問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ影響下の男女共同参画センターの広報事業とは ・男女共同参画センターの広報の現状と課題 <p>◇ワークショップ① (11:10～12:00)</p> <p>「アンケート結果の報告、課題の共有 (グループワーク)」</p> <p>ファシリテーター/宗村 瑞枝 (新潟県女性センター)・ 桜井 陽子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者を実施し集計した「広報事業に関する事前アンケート」の報告、課題の共有 ・広報事業の悩み・活用事例を共有 (グループワーク)、全体発表 <p>◇講義② (13:00～13:30)</p> <p>「広報事業のオンライン活用例」</p> <p>講師/石見 明子 (世田谷区立男女共同参画センター らぶらす 専門職員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・らぶらすでのSNS活用事例とその成果 ・コロナの影響による新しいオンラインツールの利用について <p>◇ワークショップ② (13:30～14:00)</p> <p>「広報事業の再構築 (個人ワーク)」</p> <p>ファシリテーター/笠 由美子 (福岡県男女共同参画センター「あすばる」) 桜井 陽子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義・ワークショップを踏まえ、次年度の自センターの広報事業について、媒体ごとに検討 <p>◇ワークショップ③ (14:10～15:00)</p> <p>「意見交換 (全体ワーク)」</p> <p>ファシリテーター/笠 由美子 ・ 桜井 陽子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークや研修での感想や気づきを共有 (グループワーク) ・広報事業での今後の取組み目標や抱負などを参加者一人ずつ発表 ・研修のまとめ
<p>実参加者数</p>	<p>21 名 【内訳】 協議会 会員館 : 17 館 (9 都府県より参加) 協議会 非会員館 : 0 館</p>
<p>アンケート結果の概要</p>	<p>別紙</p>

<p>担当者所感</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大により、開催決定までに時間を要した。</p> <p>当初、全国女性会館協議会と福岡県男女共同参画センター「あすばる」の共催、全国女性会館協議会と新潟県女性センターとの共催、で実施する予定であった。感染症拡大により、県外の往来が難しい状態が続き、開催するか否か、開催の方法などを話し合った。話し合いは、世田谷区立男女共同参画センターらばらすの協力を得て、Zoomによるオンライン会議を行った。</p> <p>新潟県女性センターは、対面での開催を希望していたが、社会情勢に伴い、同センターのWi-Fi環境を整えたことで、全国女性会館協議会、福岡県男女共同参画センター「あすばる」との三者合同によるオンライン開催に参加することができた。</p> <p>また、世田谷区立男女共同参画センターらばらすから、打合せのZoom設定のほか、当日のオンライン運営などを担っていただいた。これは、当初から話し合いに参加していただき、実現できた体制であったと思う。</p> <p>役割分担として、新潟県女性センターは、事前アンケート作成、参加受付、事前アンケートの送受信、事前アンケート集計、ワーク1の進行、午後司会を行った。開催方法がこれまでと異なり、プログラム企画にも深く関わることができた。</p> <p>事前アンケートでは、参加していただいたセンターそれぞれの現状や取り組み、課題を出していただいた。ワーク1のアンケート報告、課題共有をすることができた。</p> <p>ワーク1では、参加者のみなさんから、グループワークで情報交換をしていただいた。「参考になった」などの受講後アンケートから、課題の共有がされ、有意義な情報交換となったと実感した。</p> <p>講師のお二人からは、「広報」の目的、「オンライン化」による広報の手法を具体的にわかりやすく講義していただいた。広報の目的を明確にする、決裁後の文章などを各媒体で使うなど、効果的・効率的な広報を考えるよいきっかけとなった。</p> <p>コロナ禍によって、新しい運営方法を実施できたことや、全国のセンターからご参加・ご協力いただけたことは、大変有意義で、貴重な経験となった。</p> <p style="text-align: right;">(新潟県女性センター 宗村 瑞枝)</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の第1波が収束した6月から、今年度の研修をどうするかという協議からスタートした。従来通りの開催か、また、中止・延期か、オンラインでの開催か、全国女性会館協議会（東京）、新潟県女性センター（新潟）、福岡県男女共同参画センター「あすばる」（福岡）の三者でオンライン（Zoom）による協議を重ねていった。</p> <p>最初は、Zoomなどの技術面に不安はあったが、このようなコロナ禍の状況だからこそ、この研修を継続して行く意義があるのではないかと、また、オンライン（リモート）対応が今後必須となるのではないかなどを考えから、オンラインでの合同開催に踏み切った。結果、感染拡大の状況に左右されず、研修を無事に開催できて良かったと思う。</p> <p>オンライン開催に伴い、以下のような変更を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2日間の研修プログラムを1日のプログラムに変更 ・テーマを情報事業・広報事業研修から広報事業に絞り込み ・開催回数を2回（新潟、福岡）から1回（オンライン）に変更し、新潟
--------------	---

福岡の両センターで合同運営。世田谷区立男女共同参画センターらびらすがオンライン運営に協力（Zoomホスト）。

募集開始から締め切りまでが約3週間という短期間となったが、定員を上回る申し込みがあり、21名が受講した。実施県の新潟県・福岡県のほか、宮城県、埼玉県、千葉県、東京都、静岡県、大阪府、広島県からの参加があった。これは、移動時間や旅費が不要であるオンライン特性が反映された結果ではないかと考えられる。

また、対面での研修では、つながりを持ちにくい会員館（男女センター）の担当者同士がオンラインを通じて、意見・情報交換ができたことも、大変意義のあることだったと思う。しかしながら、オンライン環境が整っていない会員館等は、参加が難しいことから、このあたりの配慮も今後は必要となってくると思われる。

福岡県男女共同参画センター「あすばる」は、広報チラシの作成、午前の司会、ワーク2（個人ワーク）、ワーク3（全体ワーク）の進行、参加者アンケートのとりまとめを行った。

ワーク2では、自センターの広報事業の再構築を個人ごとに行い、その結果を次のワーク3のグループワークの時間で情報共有。そして、ワーク3の最後に、参加者全員に「今回の研修を学んで来年度の広報事業にどう活かしていくか」を発表してもらった。この研修の講義で学んだことや、ワークショップで共有した他のセンターの取組みを参考にして、より効果的な広報に取り組んでいきたいなどの発表を聞くことができた。

ワーク3では、4～5名ほどの人数に分けグループワークを実施、参加者のみでの意見交換を行った。Zoomで各グループに振り分けると、それぞれのグループが個室化するような状態になり、機能的な制約もあり、グループ外から全体をモニタリングすることはできなかった。このため、対面研修であれば可能な会場全体を見渡ししながら必要に応じて声掛けなどのフォローが、オンラインではできず、オンラインで進行することの難しさも感じた。

また、個人ワークや全体ワークでの時間が足りなかったという意見もアンケートであったため、今後、ワークショップについては、時間配分やグループワークでのサポート方法などをもう少し見直していければ、更に良い研修になると思う。

運営については、共催の三者と協力のらびらすが、オンラインミーティングで何度も協議を重ねてきたことで、良いチームワークができ、スムーズな研修運営につながったと思う。今回、外部委託することなく全国会館協議会の会員館のみで研修運営をすることもできたことが大きな成果だったと思っている。

（福岡県男女共同参画センター「あすばる」 笠 由美子）